

第1回

貴志川流域(紀美野町)を考える会



唐戸瀬橋(紀美野町下佐々)
より下流を望む

平成27年3月12日

和歌山県

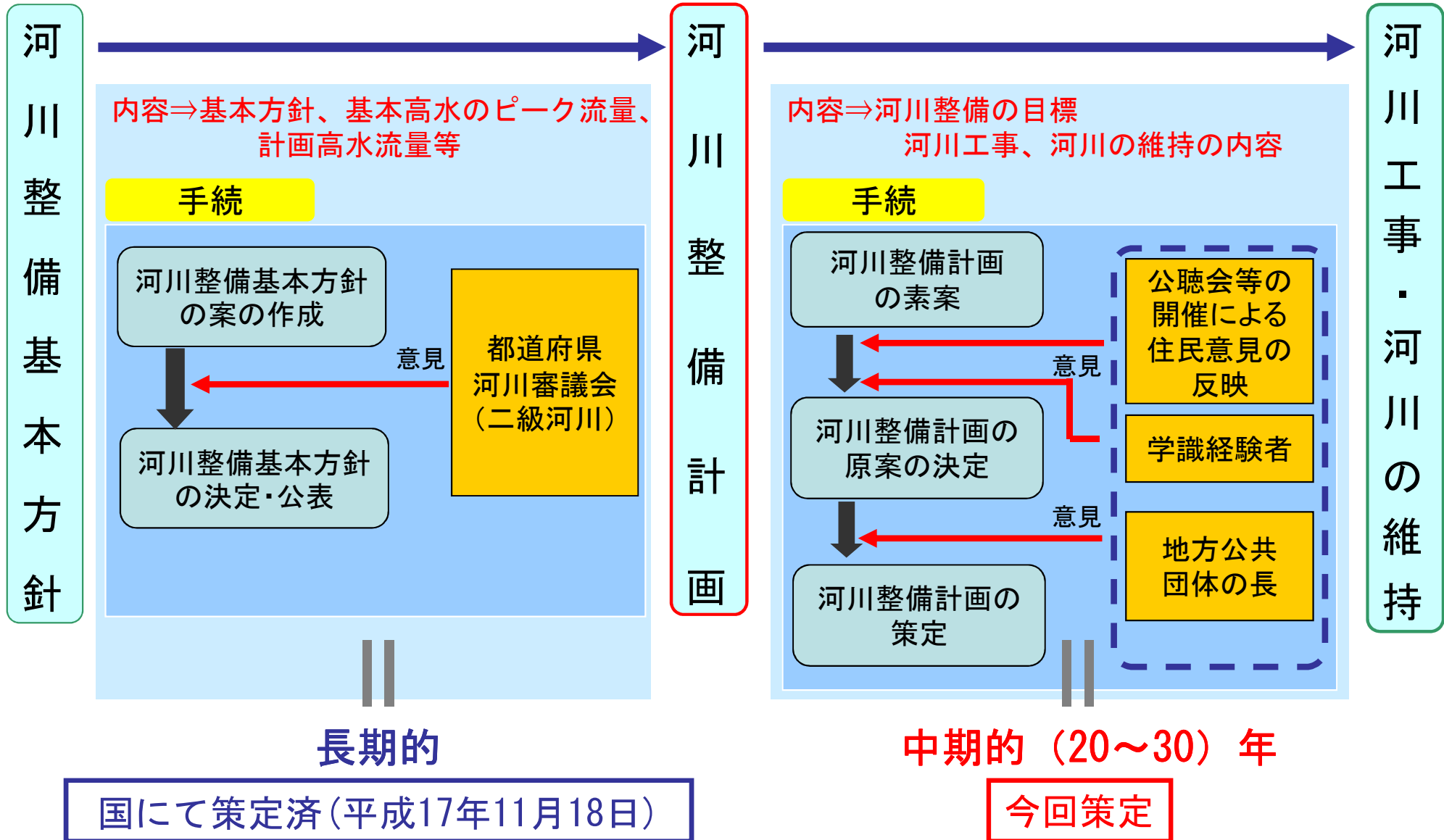
目次

○河川整備計画制度	2
○紀の川水系河川整備基本方針.....	4
○紀の川水系河川整備計画【国管理区間】.....	9
○貴志川流域の概要及び河川の現状と課題.....	13

河川整備計画制度

河川改修工事に至るまで

河川の整備においては、住民のみなさまのご意見を聴いて、具体的な整備内容を策定していきます。



紀の川水系の場合

○河川整備基本方針

国にて策定済 [平成17年11月18日]

○河川整備計画

紀の川水系河川整備計画（国管理区間）→国にて策定済 [平成24年12月5日]

指定区間（県管理区間）→県が作成

和歌山市域河川整備計画 [平成23年8月30日策定済]

紀泉圏域河川整備計画 [平成26年7月29日策定済]

貴志川流域河川整備計画 [今回検討]



紀の川水系河川整備基本方針

(平成17年11月18日策定)

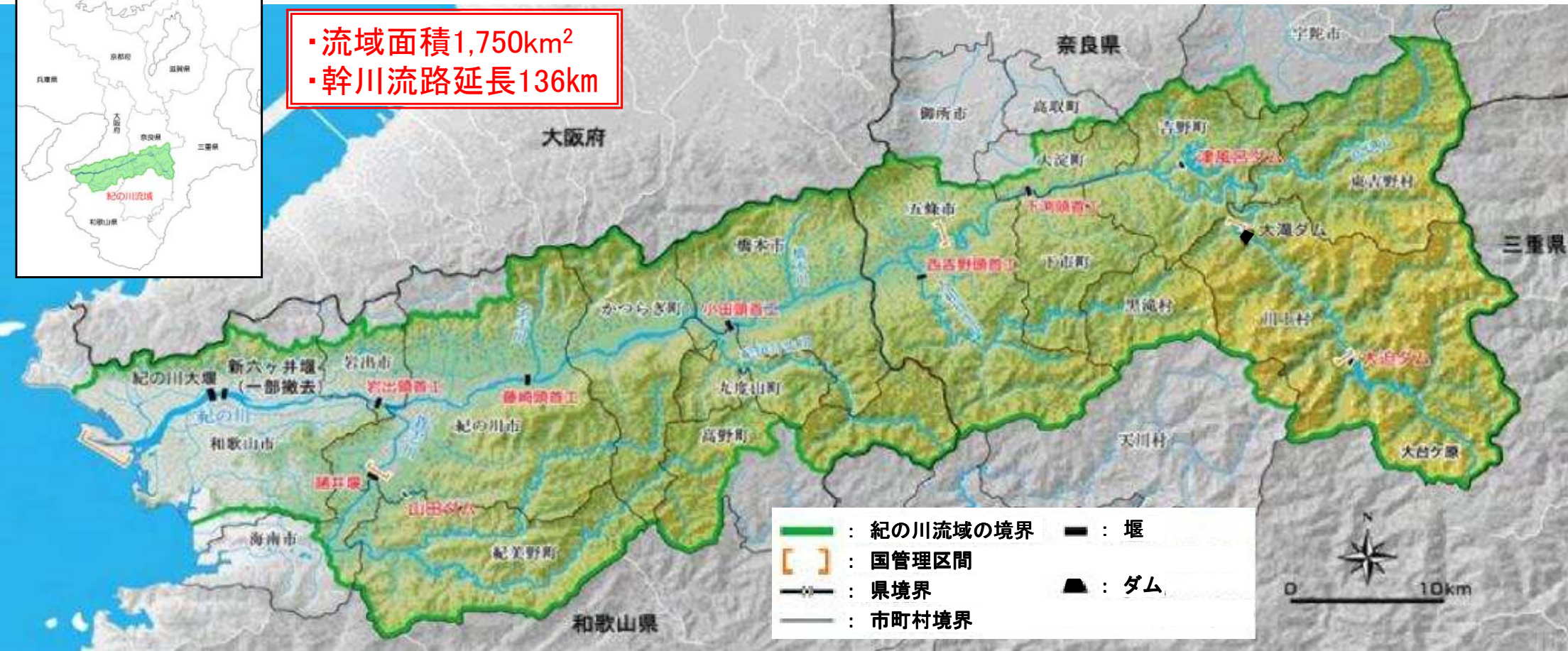
紀の川水系河川整備基本方針の概要①

流域及び河川の概要

紀の川は大台ヶ原を源流とし、中央構造線に沿って紀伊半島の中央を貫流し、高見川、大和丹生川、紀伊丹生川、貴志川等を合わせ、さらに紀伊平野に出て、和歌山市において紀伊水道に注ぐ一級河川である。



- ・流域面積1,750km²
- ・幹川流路延長136km

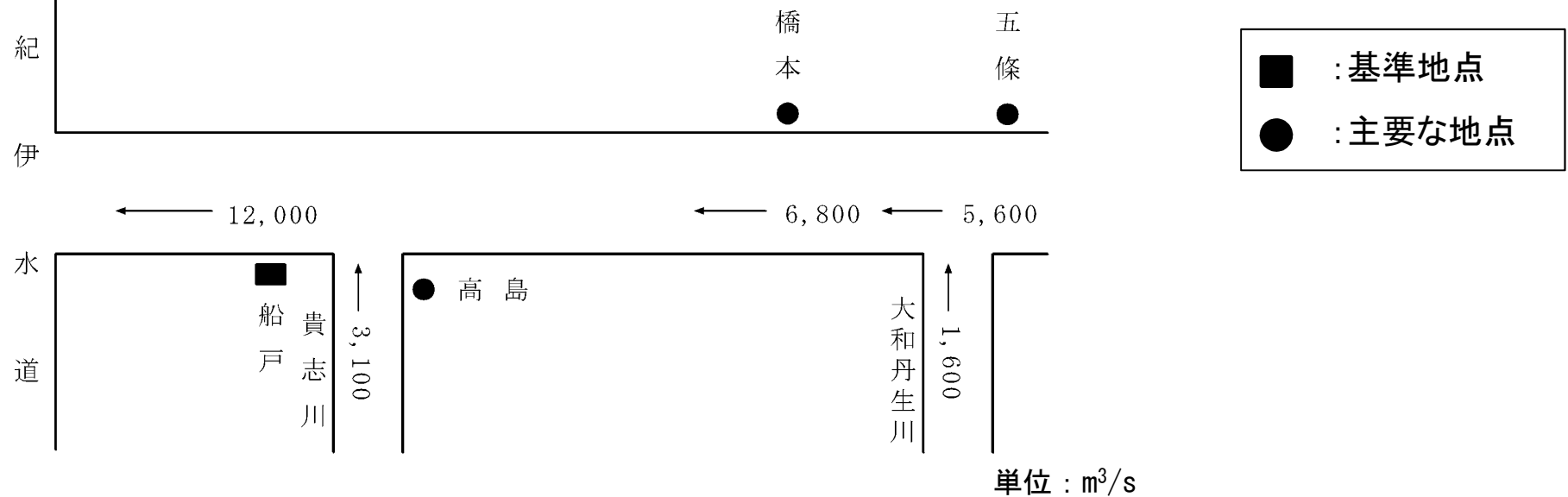


紀の川水系河川整備基本方針の概要②

災害の発生の防止又は軽減

- ・基本高水のピーク流量は基準地点の船戸において16,000m³/sとし、このうち流域内の洪水調節施設により4,000m³/sを調節して河道への配分流量を12,000m³/sとする。
- ・計画高水流量は、五條において5,600m³/sとし、大和丹生川をあわせて、橋本において6,800m³/s、紀伊丹生川、貴志川等をあわせて船戸において12,000m³/sとし、その下流は河口まで同流量とする。支川貴志川については高島において3,100m³/sとする。

<計画高水流量図>



河川名	基準地点	基本高水のピーク流量	洪水調節施設による調節流量	河道への配分流量
紀の川	船戸	16,000	4,000	12,000

紀の川水系河川整備基本方針の概要③

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持

・水資源開発施設による供給を行うとともに、広域的かつ合理的な水利用の促進を図るなど、都市用水等の安定供給や流水の正常な機能を維持するため必要な流量の確保に努める。

・紀の川大堰地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量は、利水の現況、用水の反復利用、動植物の保護・漁業、景観、流水の清潔の保持等を考慮して、かんがい期は概ね $5\text{m}^3/\text{s}$ 、非かんがい期は概ね $4\text{m}^3/\text{s}$ とする。

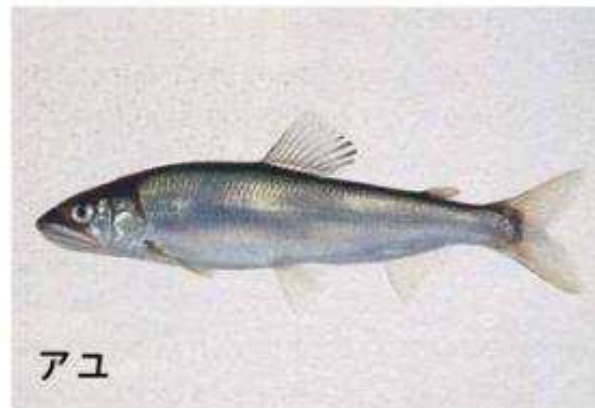
紀の川水系河川整備基本方針の概要④

河川環境の整備と保全

- ・シオマネキ等が生息する汽水域の干潟を保全するとともに、貴重な湿地性植物や多様な生物を育む下流部の浅瀬の保全に努める。
- ・アユ等の回遊性魚類の遡上や降下、生活史を全うできる成育・産卵といった縦断的な生息環境の保全に努める。
- ・万葉集にも詠われる船岡山をはじめとした歴史・文化との関わりが深い河川景観の保全に努める。



シオマネキ



アユ



船岡山

紀の川水系河川整備計画 【国管理区間】

(平成24年12月5日策定)

紀の川水系河川整備計画【国管理区間】の概要①

計画対象区間及び計画対象期間

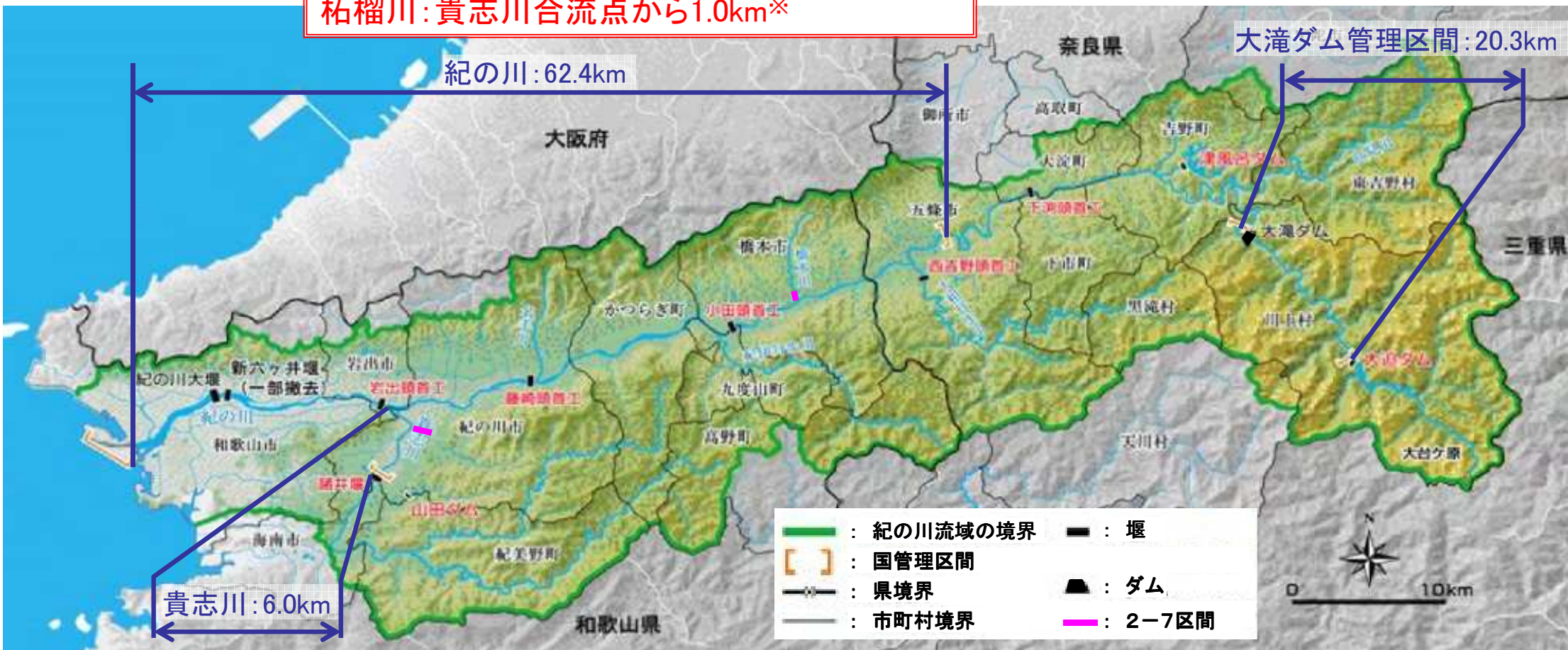
計画対象区間

・紀の川:62.4km、**貴志川:6.0km**、大滝ダム管理区間:20.3kmとする。

計画対象期間

・概ね30年間とする。

貴志川:紀の川合流点から諸井橋下流まで
柘榴川:貴志川合流点から1.0km※



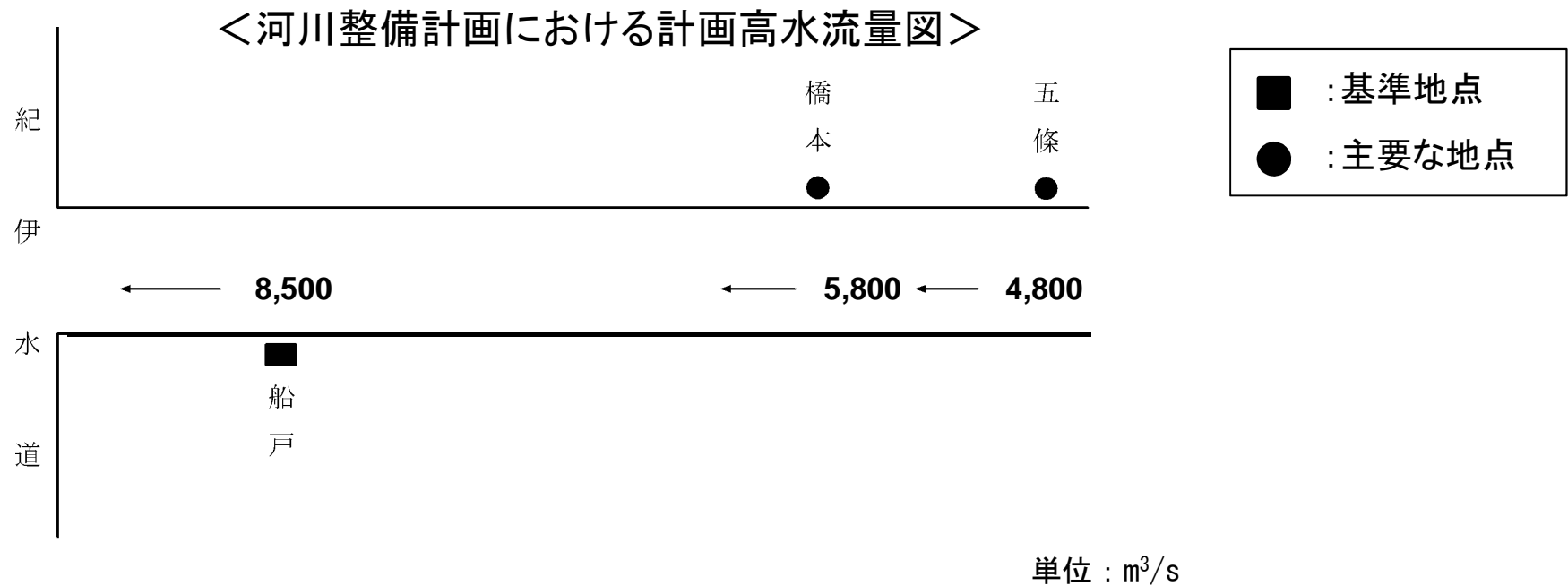
※国管理区間の改良工事と一体として施工する必要があるため、県管理区間を国が施工する区間。

紀の川水系河川整備計画【国管理区間】の概要②

河川整備の実施に関する事項

整備の目標

・過去の水害の発生状況、人口や資産の状況、現在の河道整備状況、土地利用状況等を総合的に勘案して、治水安全度の上下流バランスを図りながら段階的な整備を実施することにより、**戦後最大洪水(昭和34年9月洪水)**による災害の防止及び被害の軽減を図ることを目標とする。



紀の川水系河川整備計画【国管理区間】の概要③

河川の整備の実施に関する事項

- ・洪水を安全に流す取り組み（洪水調節施設の整備(大滝ダム)、**河道の整備**、支川対策、堤防の安全性の確保)

河道の整備箇所



- ・地震、津波対策（堤防、堰、樋門等の耐震対策、緊急用河川敷道路、津波対策、東日本大震災の教訓を踏まえた対応）
- ・危機管理対策（洪水時の河川情報の収集・提供、水防活動の円滑化、津波発生時の情報の収集・提供）

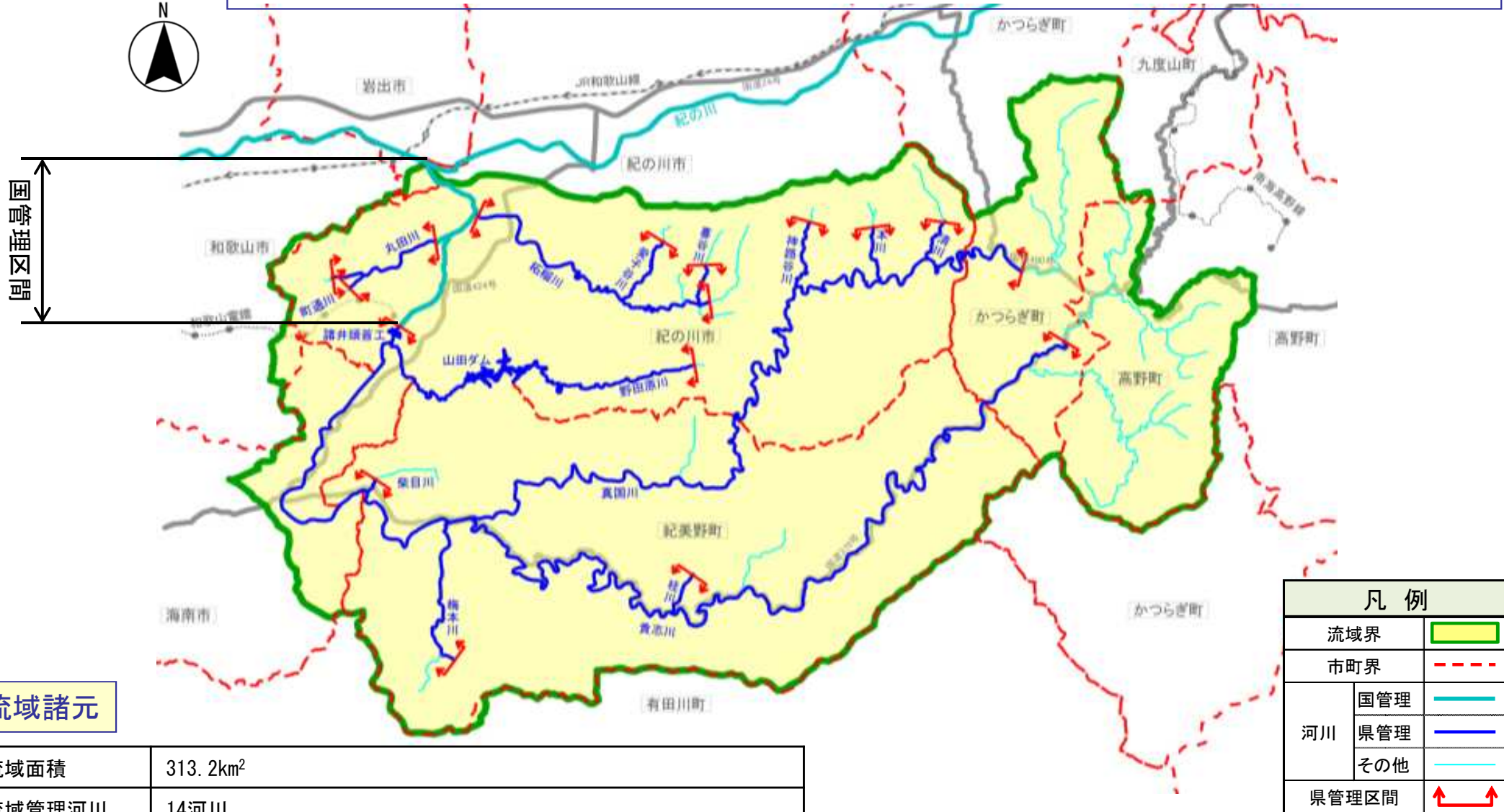
貴志川流域の 概要及び河川の現状と課題

貴志川流域の流域及び河川の概要

貴志川流域の河川

貴志川流域の河川

・貴志川は紀の川の一次支川で、高野山西麓の高野町、九度山町、かつらぎ町境界付近を水源とし、2市4町を流下し、紀の川に合流する流域面積313.2km²の一級河川である。



流域諸元

流域面積	313.2km ²
流域管理河川	14河川
関連市町	海南市、紀の川市、紀美野町、かつらぎ町、九度山町、高野町
人口※	15万人（平成22年国勢調査）

※海南市、紀の川市、紀美野町、かつらぎ町、高野町の合計

貴志川流域の概要① —地形・地質—

地形

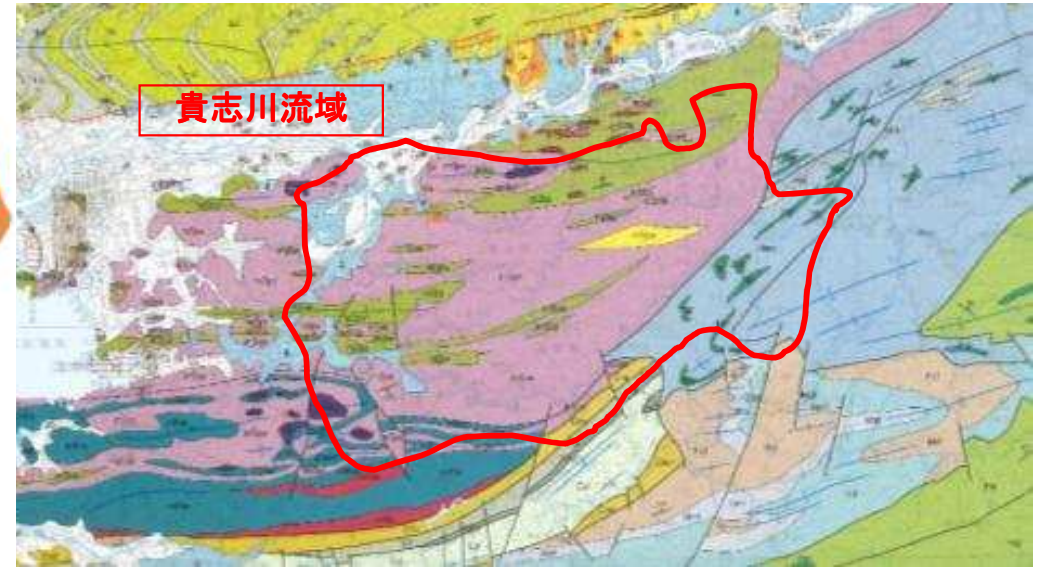
・貴志川の上・中流部は、標高700m～900mの高山に囲まれ、下流部は、河床勾配は緩くなり、低地部が開ける。

地質

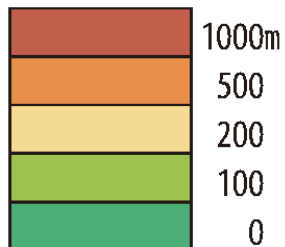
・上流・中流部の大半が古生代の変成岩の三波川変成帯に属する。
 ・下流部は川沿いに礫・砂・泥から成る中位・低位段丘相当層が分布し、貴志川と紀の川の合流点付近は谷底平野堆積物である砂や泥が分布している。



出典)パンフレット 和歌山の河川



出典)近畿地方土木地質図解説書
 近畿地方土木地質図編集委員会 平成15年3月

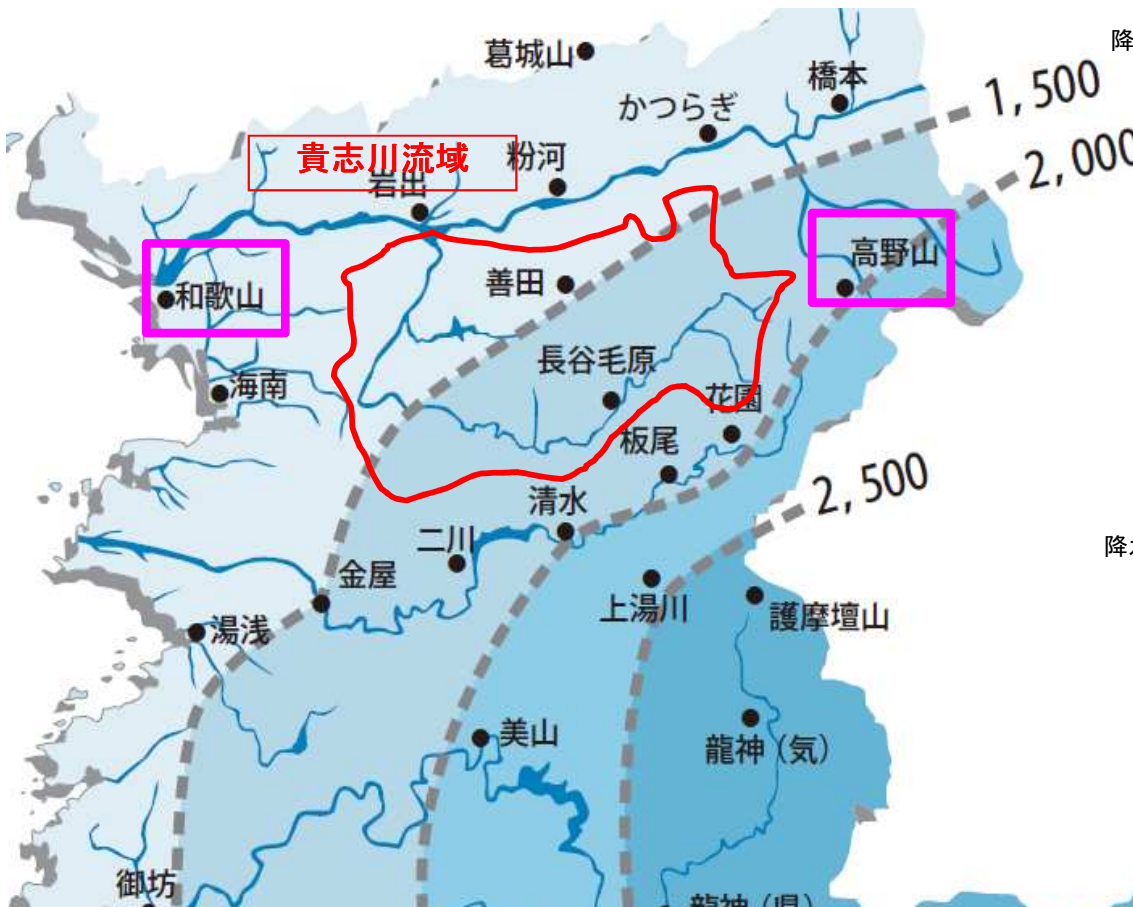


凡例	
○三波川変成岩類	○中位・低位段丘相当層
mSpa 泥質片岩	tl 礫・砂・泥
mSpa 砂質片岩	○高位段丘相当層
mSba 頁鉄質片岩	th 礫・砂・泥
mSsi 珪質片岩	○大阪層群中部亜層群・上部亜層群及び相当層
nlr 蛇紋岩	Qu 礫・砂・泥(火山灰層を挟む)
○後背湿地・谷底平野堆積物	○大阪層群下部亜層群及び相当層
ab 砂・泥	Ql 礫・砂・泥(火山灰層を挟む)
○自然堤防・砂州堆積物	○和泉層群
an 礫・砂	Iss 礫岩・砂岩・砂岩優勢互層
	Imc 泥岩・泥岩優勢互層

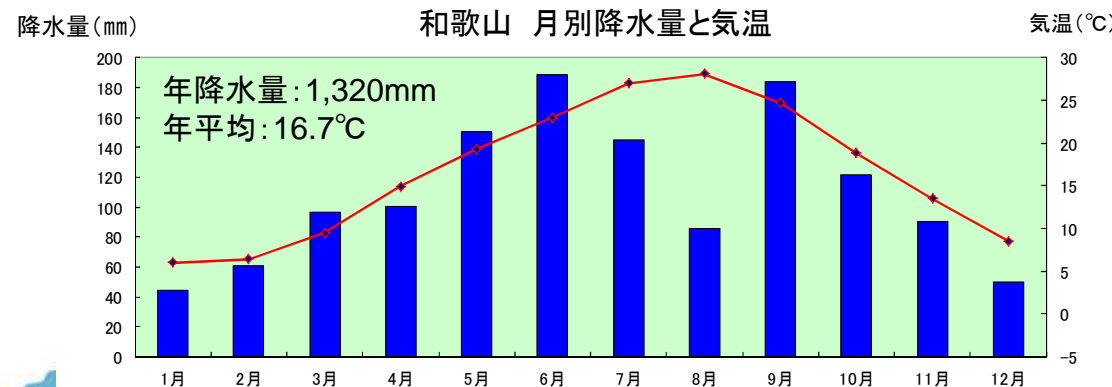
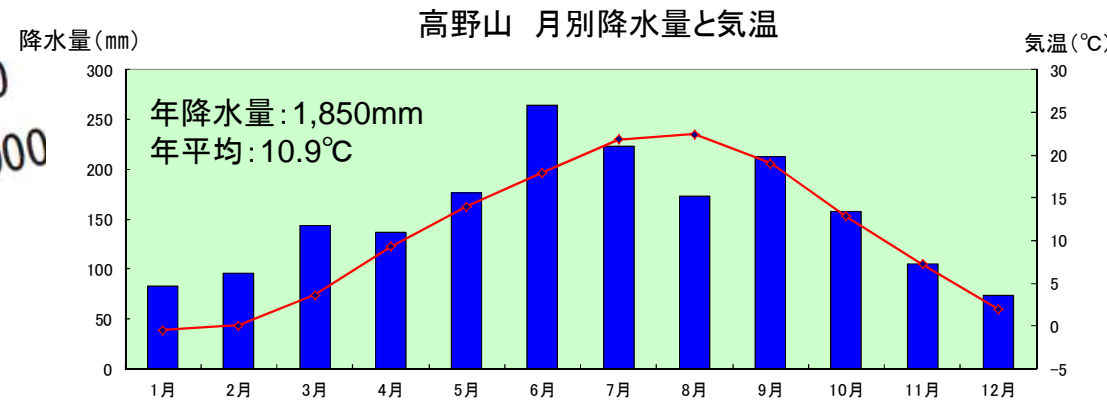
貴志川流域の概要② 一気候一

気候

・瀬戸内気候区に属し、一年を通じて温暖で、上流域付近(高野山観測所)で年平均気温 10.9°C 、年降水量は $1,850\text{mm}$ 、下流域付近(和歌山観測所)で年平均気温 16.7°C 、年降水量が $1,320\text{mm}$ である。



出典)パンフレット 和歌山の河川



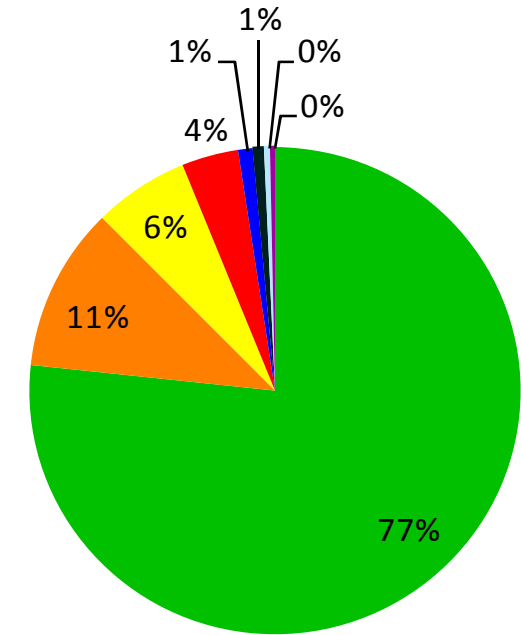
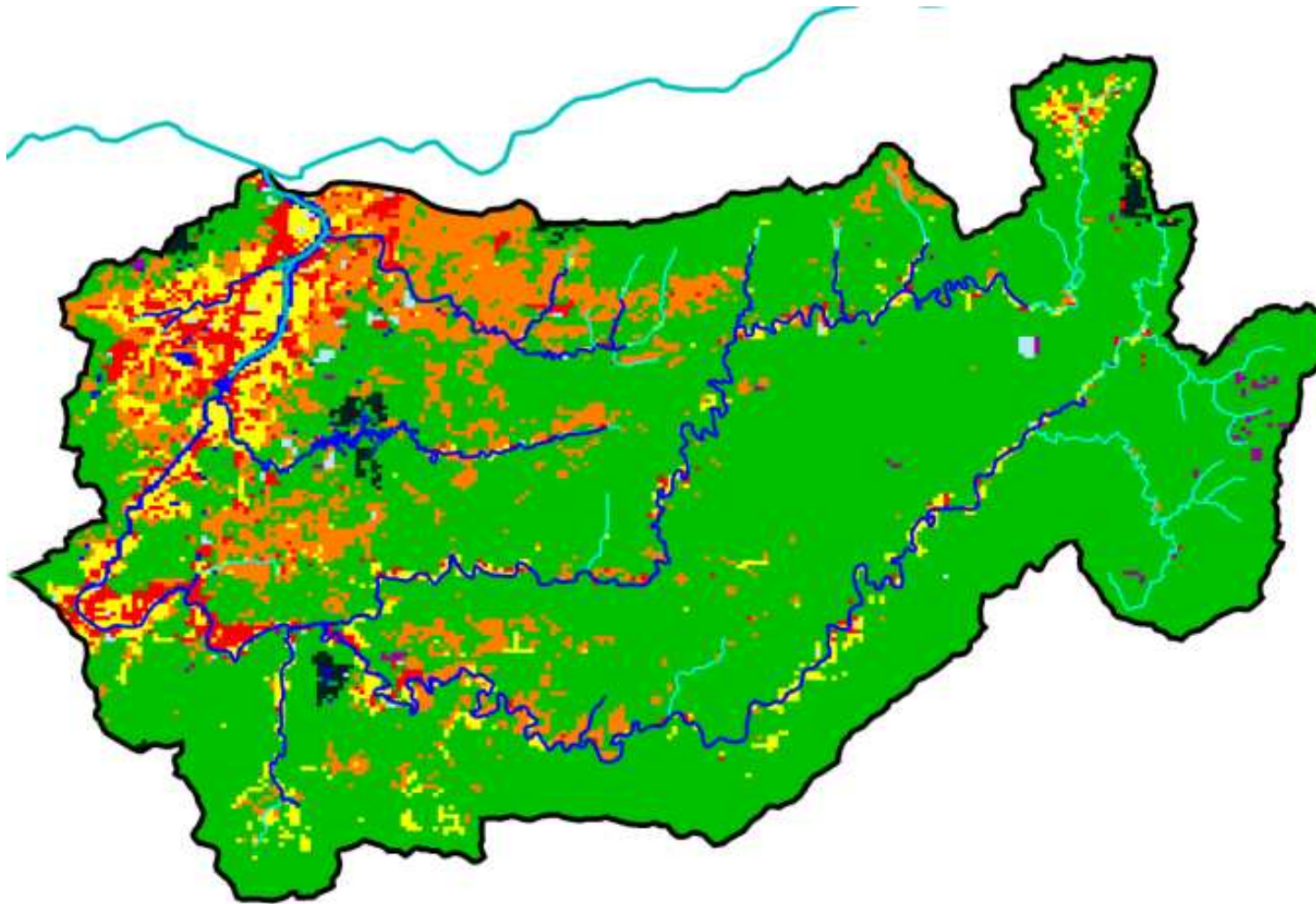
1981年～2010年の30年間の平均値

出典)気象庁ホームページ

貴志川流域の概要③ —土地利用—

土地利用

・山林が約77%を占め、次に田畑が約17%となっており、建物用地は約4%となっている。



国土数値情報土地利用細分メッシュデータ(平成21年度)より作成

貴志川流域の概要④ — 歴史・文化・観光 —

歴史・文化・観光施設

・流域の上流は、霊場高野山に通じる道沿いに位置することから、高野山と歴史的な関わりが深く、多くの名所・旧跡が残されており、歴史や文化が息づいた地域となっている。



三船神社



龍門山の明神岩



丹生都比売神社



野上八幡宮本殿



野上八幡宮絵馬



釜滝の嘔穴



生石高原のススキ草原



ススキ草原の山焼き



じらかしの老大樹群



凡例			
国指定	有形文化財	重要文化財	●
		国宝	●
	記念物	史跡	▲
		名勝	▲
	天然記念物	▲	
県指定	民俗文化財	有形	■
		無形	■
	有形文化財	有形文化財	●
		史跡	▲
記念物	名勝	▲	
	天然記念物	▲	
民俗文化財	有形	■	
	無形	■	
県立自然公園			■
国定公園			■

写真出典: 和歌山県ホームページ
各市町ホームページ

貴志川流域の河川の現状と課題

治水の現状と課題① —過去の主な水害の概要(1)—

貴志川流域の洪水被害

- ・昭和28年7月洪水や昭和34年9月伊勢湾台風による大雨により被害を受けた。
- ・近年においても、県内に甚大な被害をもたらした平成23年9月台風12号では、海南市、紀の川市及び紀美野町等で家屋浸水被害が発生した。

平成13年6月洪水



貴志川

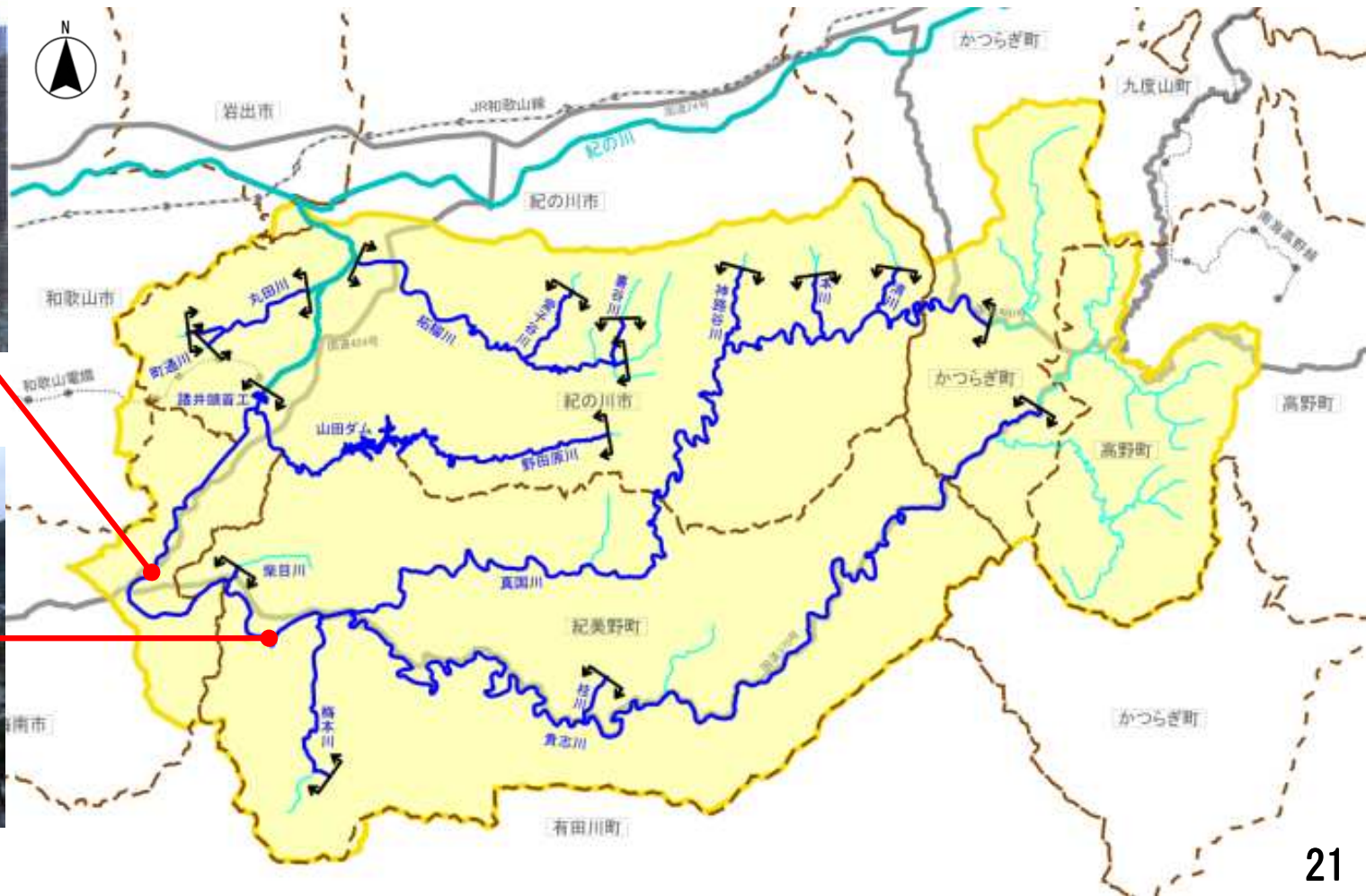
国道424号冠水状況

平成23年9月台風12号洪水



貴志川

紀美野町下佐々地区



治水の現状と課題② — 過去の主な水害の概要(2) —

近年の洪水被害の概要

河川名	発生時期		市町村名	浸水面積 (ha)	被災家屋棟数				
	年度	日時			床下 浸水	床上 浸水	半壊	全壊 流出	その他
貴志川	H26(2014)	8/9~8/10(台風11号)	紀の川市・紀美野町	20.00	3				
	H25(2013)	9/15~9/16(台風18号)	海南市	不明	4	1			3
	H24(2012)	6/14~6/28(梅雨前線豪雨及び台風4号)	紀美野町	0.070	3				
	H23(2011)	8/30~9/7(台風12号及び豪雨)	海南市・紀の川市・紀美野町	194.21	69	57	20	8	
	H13(2001)	6/18~6/30(梅雨前線豪雨)	海南市・貴志川町・野上町・美里町	27.28	55	20			
	H10(1998)	5/15~5/17(豪雨)	海南市	0.010	1				
	H7(1995)	6/29~7/23(梅雨)	野上町	0.034	5				
	H5(1993)	9/6~9/10(台風14号)	海南市	0.0002	1				
	H1(1989)	8/31~9/16(豪雨、落雷)	海南市	0.0003	3				
S50(1975)	8/5~8/25(豪雨及び暴風雨)		0.0011	19				1	
柘榴川	S53(1978)	6/7~7/5(台風3号と豪雨)	桃山町	0.01	5				
野田原川	H13(2001)	6/18~6/30(梅雨前線豪雨)	桃山町	0.02	4				
	S50(1975)	8/5~8/25(豪雨及び暴風雨)	桃山町	0.0009	28				
町通川	S50(1975)	8/5~8/25(豪雨及び暴風雨)	貴志川町	0.0002	4				
真国川	H23(2011)	9/1~9/4(台風12号)	紀の川市・紀美野町	1.52	13	20	7	3	
	H13(2001)	6/18~6/30(梅雨前線豪雨)	野上町	0.061	5				
柴目川	H10(1998)	5/15~5/17(豪雨)	野上町	0.0076	1				

・昭和50年～平成24年は水害統計
 ・平成25、26年は河川課調べ

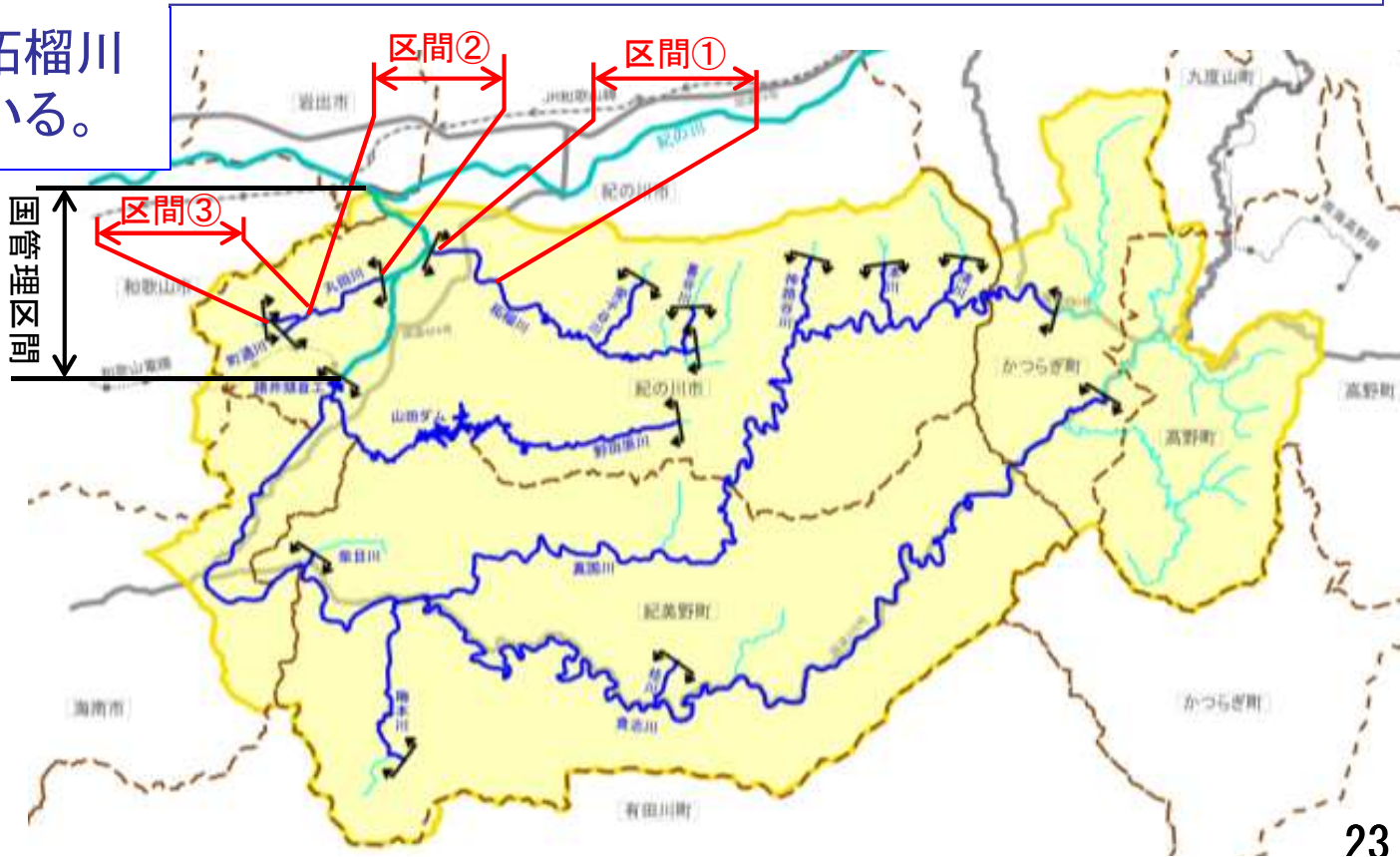
治水の現状と課題③ — 治水事業の沿革 —

貴志川流域における治水事業

- ・直轄事業としては、大正6年9月洪水を契機に大正12年に「紀の川改修計画」が策定され、昭和25年に貴志川の主要区間の築堤工が改修区間として編入された。
- ・昭和28年7月洪水をはじめ、昭和28年9月の台風13号、昭和34年9月の伊勢湾台風と大型台風が相次ぎ、新たな治水計画が策定された。
- ・昭和40年4月に紀の川は一級河川に指定されたことから、「工事实施基本計画」が策定され、貴志川の6.0km区間は国管理区間となった。
- ・県管理区間の河川改修事業は、柘榴川丸田川の一部区間で実施されている。

県管理区間の河川改修事業一覧

No	河川	改修延長	着手年度
①	柘榴川	2.5k	昭和43年
②	丸田川	3.5k	昭和49年
③	丸田川	1.12k	平成元年



治水の現状と課題④ ー貴志川ー

現状

・紀の川合流から6.0kmの国管理区間では、昭和28年7月洪水対応の改修が進められているが、県管理区間は、未改修であり、平成元年以降で9度にわたり浸水被害が発生しており、特に、平成23年台風12号では床下浸水69棟、床上浸水57棟、半壊20棟、全壊流出8棟の家屋被害が発生している。

平成23年9月台風12号洪水時



普段の様子



紀美野町下佐々地区

課題

・近年、洪水による浸水被害が発生しており、河道掘削等により流下能力不足箇所の河積を確保し、治水安全度の向上を図る必要がある。

治水の現状と課題⑤ 一 柘榴川一

現状

- ・貴志川の直轄管理区間に合流する築堤河川であり、貴志川合流点から1.0k区間は国による河川改修※が行われている。
- ・平成26年台風11号では、柘榴川による家屋浸水被害は発生しなかったが、はん濫注意水位を上回った。

課題

※ 国管理区間の改良工事と一体として施工する必要があるため、県管理区間を国が施工すること。

- ・築堤河川であり破堤した場合は旧桃山町に甚大な被害が発生すると想定される。
- ・国による改修と調整を図りながら、河道掘削等により流下能力不足箇所の河積を確保し、治水安全度の向上を図る必要がある。



平成26年8月台風11号洪水時



普段の様子



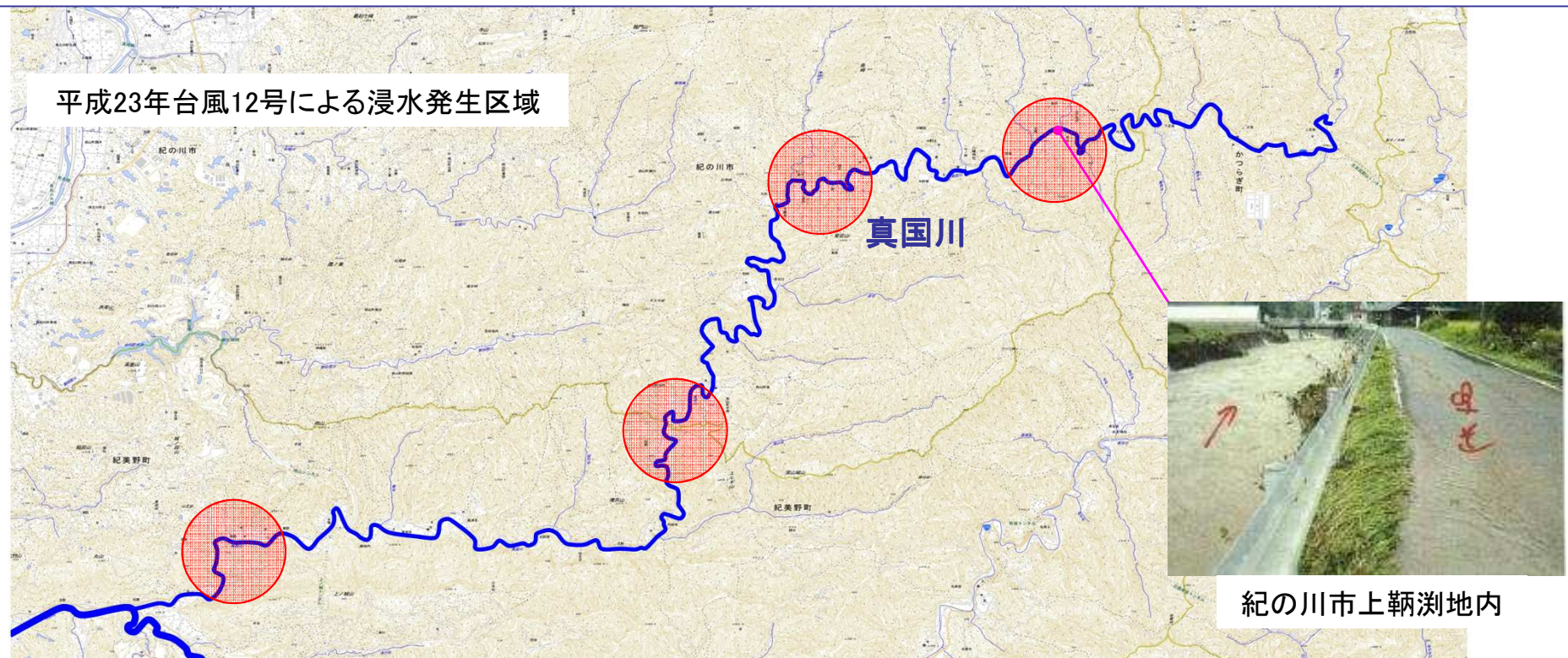
治水の現状と課題⑥ ー真国川ー

現状

・真国川は、流域面積が最大の支川であるが、全川にわたり未改修であり、平成23年台風12号では床下浸水13棟、床上浸水20棟、半壊7棟、全壊流出3棟の家屋被害が発生している。

課題

・平成23年台風12号洪水により家屋浸水被害が発生した箇所が、上流、中流、下流と点在していることから、上下流のバランスに配慮して、治水安全度の向上を図る必要がある。



治水の現状と課題⑦ –ソフト対策–

現状

・近年の気象状況では、局地的な集中豪雨が多発しており、整備途上段階で現況流下能力以上の洪水や整備目標流量を上回るような洪水が発生した場合、甚大な被害が発生する危険性が高くなっている。

課題

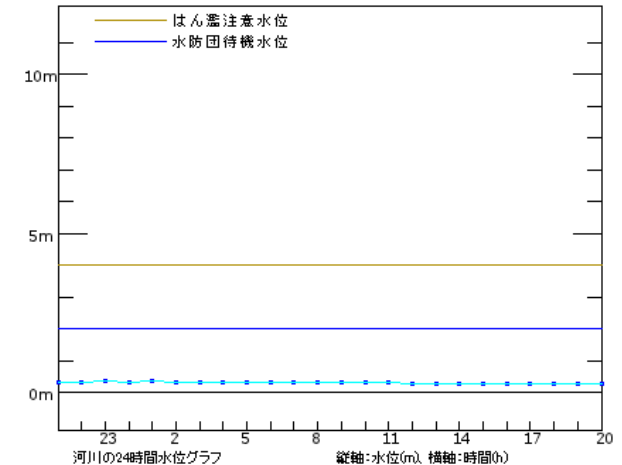
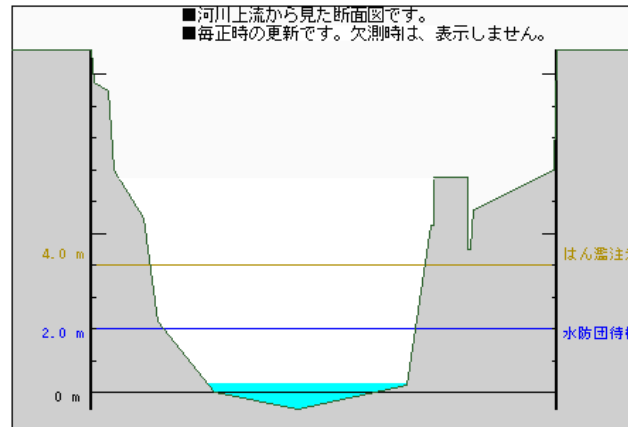
・流域自治体、地域住民等の密接な連絡や協力を保ち、河川の水位情報等、ソフト対策を充実させ、被害の軽減に努める必要がある。

河川水位情報の提供

海草振興局建設部 野上新橋 水位観測所 2015年02月24日20時30分 現在

野上新橋 水位観測所		観測局情報:野上新橋(のかみしんばし)		
観測局情報	現状水位(m)	0.29		
水位状況図	河川名	貴志川(ぎしがわ)		
水位変化表	所在地	海南市 野上中(のかみなか)	はん濫注意水位(m)	4.00
	所在地詳細	野上新橋 右岸 上流10m	水防団待機水位(m)	2.00

水位状況図



出典)和歌山県ホームページ

河川の利用の現状と課題① ー利水ー

現状

- ・貴志川流域の河川水は、主に、農業用水として利用されている。
- ・平成13年7月下旬～8月下旬に諸井堰下流(国管理区間)で瀬切れが発生した。

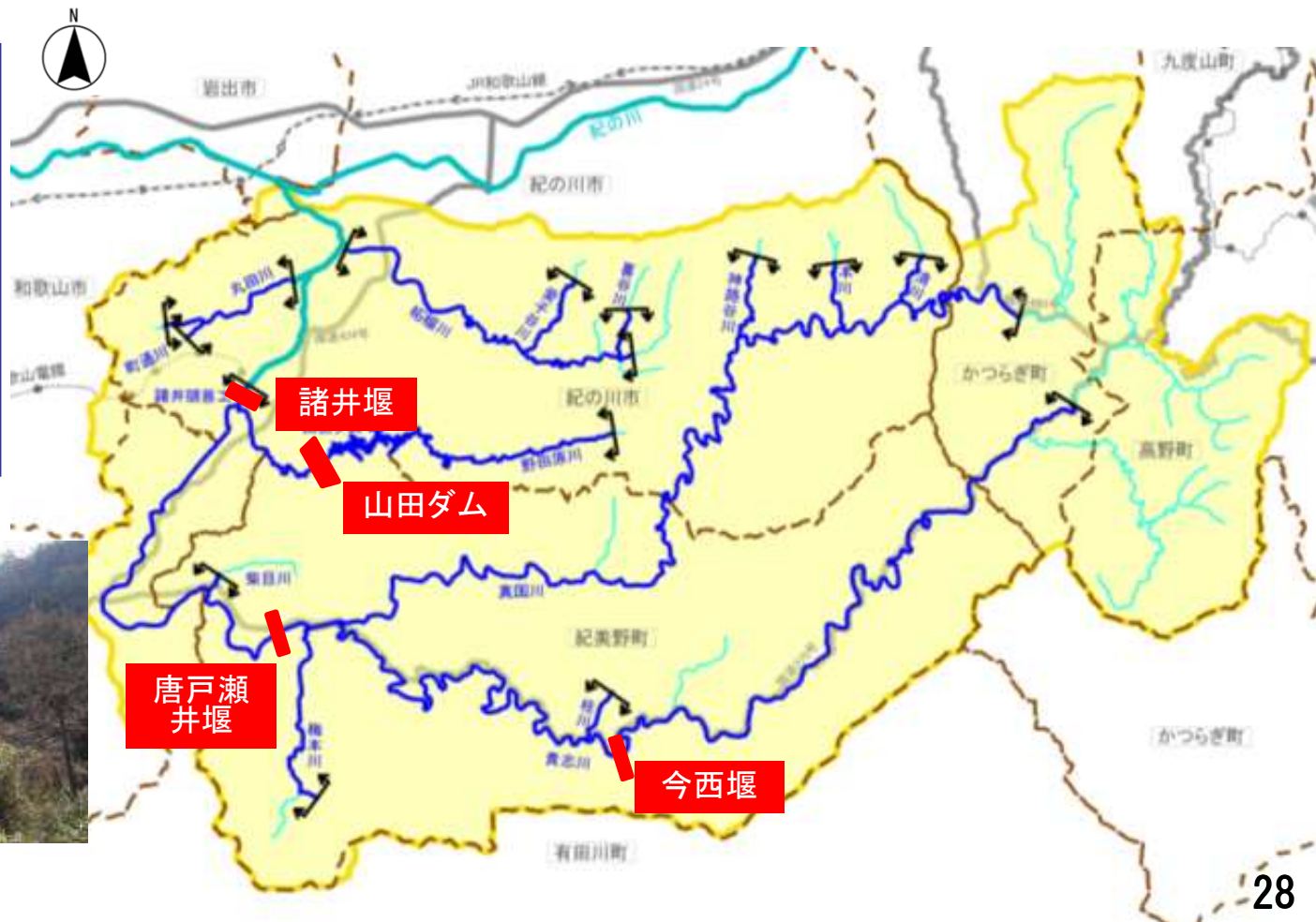
課題

- ・近年は作付作物の変化等、営農形態が変化しており、現状の水利用の実態を把握していく必要がある。
- ・渇水時には、円滑な利用が図られるように、関係機関と調整を行っていく必要がある。

山田ダム(農林水産省所管)

建設年	昭和32年
利用目的	灌漑用水補給
ダム形式	重力式コンクリートダム
集水面積	16.4km ²
総貯水容量	3,400,000m ³
有効貯水容量	3,370,000m ³
事業主体	農林水産省近畿農政局

出典：ダム便覧



河川の利用の現状と課題② ー 漁業 ー

現状

・貴志川流域では、全区間で内水面漁業権が設定されており、漁業権種はアユ、モクズガニ、アマゴである。

課題

・魚類が生息・生育する河川環境を保全していく必要がある。

アユ: 貴志川流域

モクズガニ: 紀の川合流から諸井堰まで

アマゴ: 今西堰から上流の貴志川流域



河川の利用の現状と課題③ — 河川空間利用 —

現状

・自然環境が豊かな貴志川流域は、ホタルの生息場所も多く、紀の川市貴志川町の貴志川沿いに整備された「きしべの里公園 ほたるの館」や真国川沿いのかつらぎ町ホタルの里など数多くの鑑賞スポットがある。

課題

・河川改修においては貴志川らしい、良好な河川環境の整備と保全を図りつつ、沿川住民に親しまれる空間整備を行い、次世代へと引き継いで行く必要がある。



きしべの里公園 出典)紀の川市ホームページ

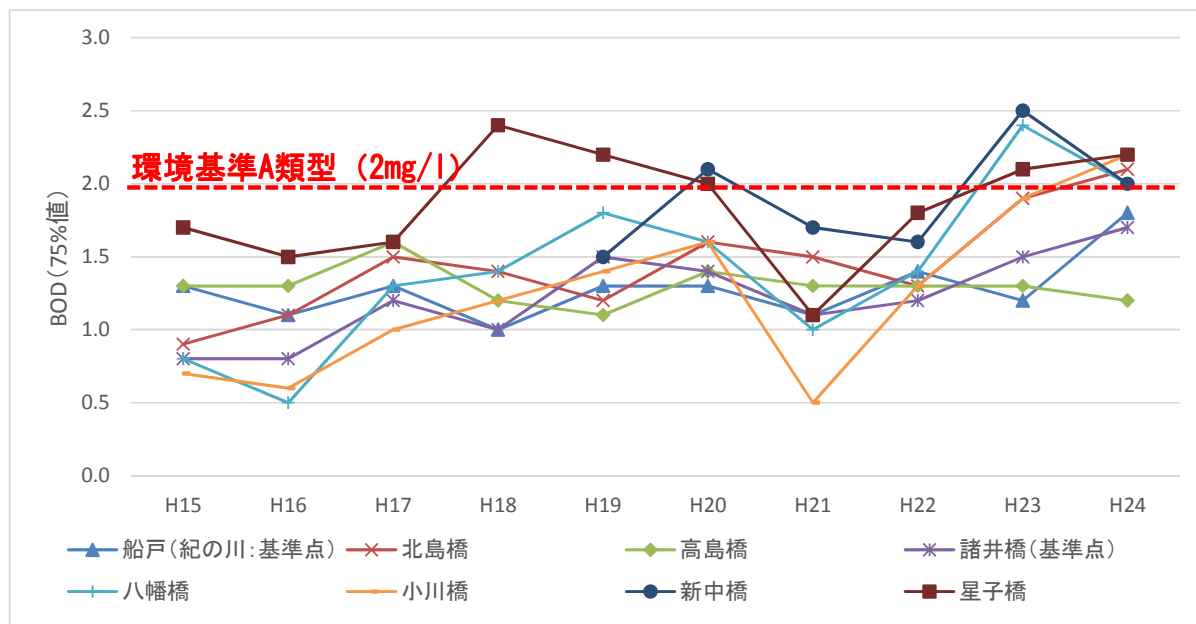


出典)かつらぎ町ホームページ

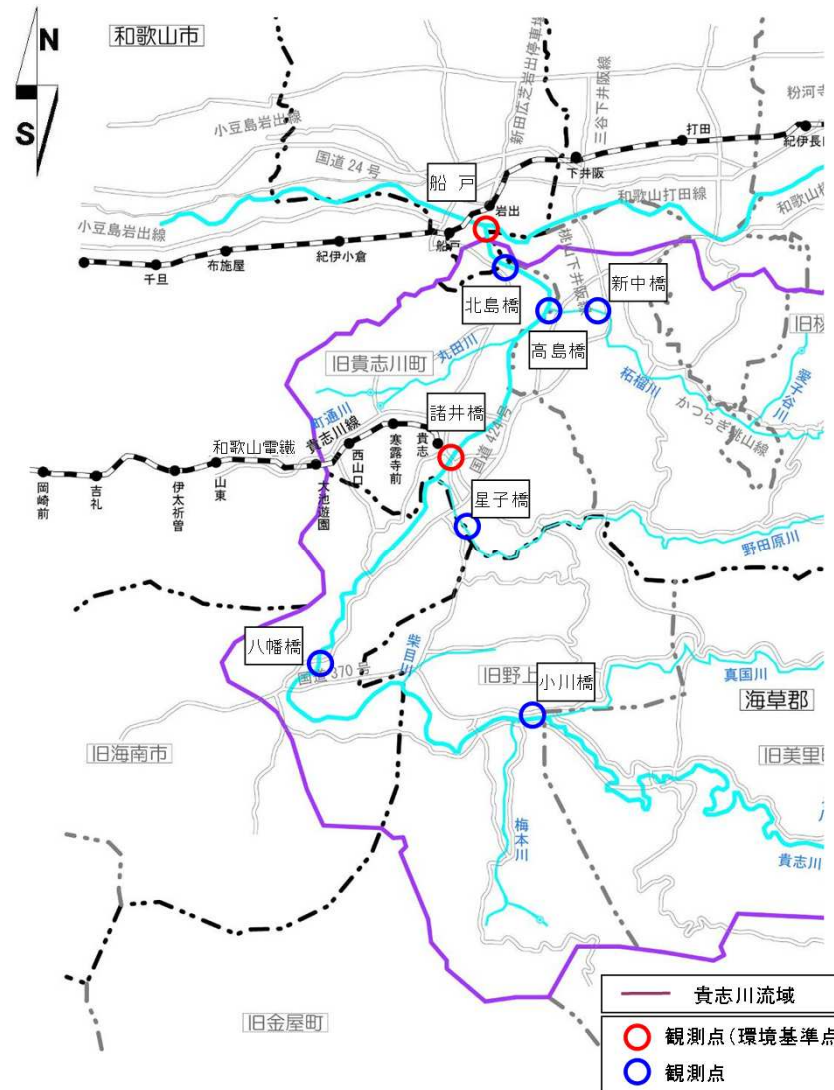
河川環境の現状と課題① —水質(1)—

現状

- ・環境基準A類型(BOD75%値2.0mg/l以下)に指定されており、諸井橋等7地点において水質測定が実施されている。
- ・過去10カ年において、環境基準値を概ね満足している。



水質調査地点



課題

- ・今後も良好な水質を維持しつつ、水質をさらに改善する必要がある。

河川環境の現状と課題② ー水質(2)ー

汚水処理人口普及率

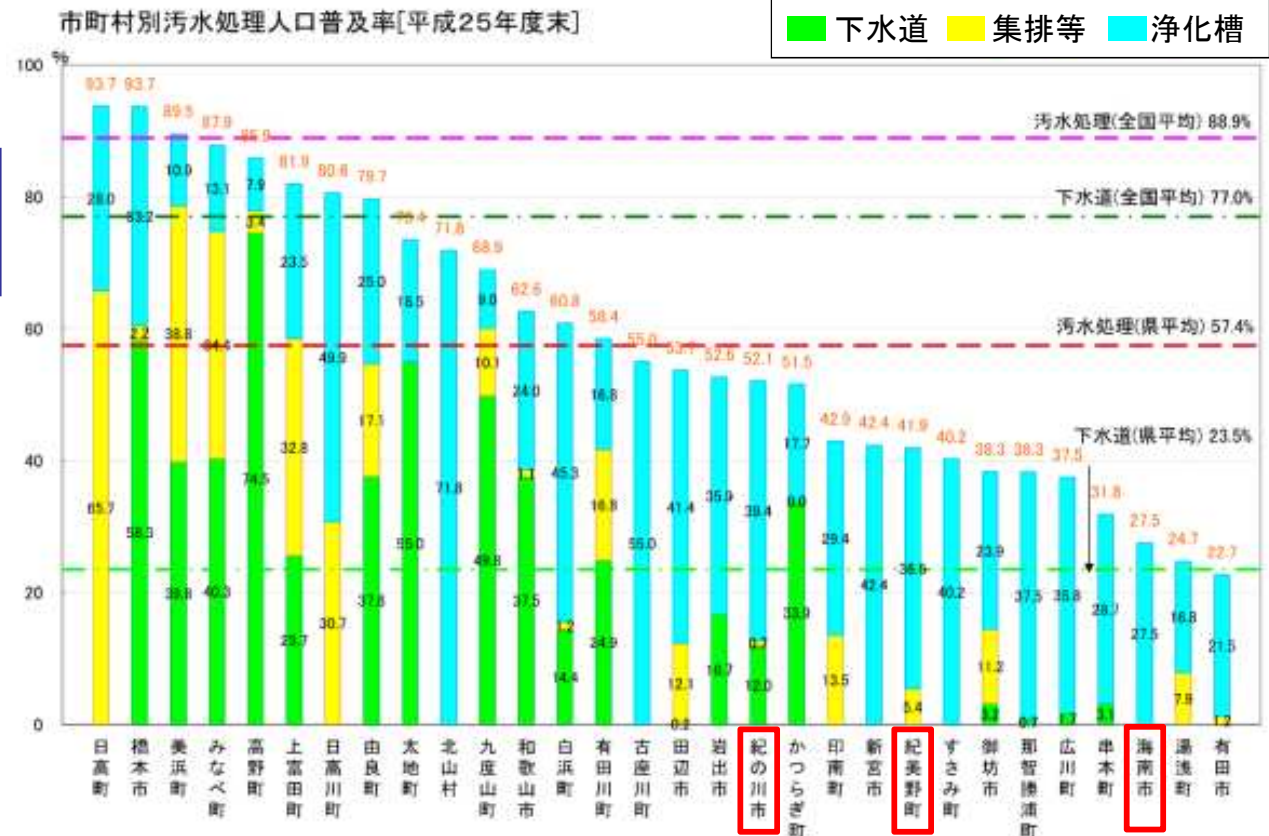
現状

・汚水処理人口普及率(平成25年度末)は、紀の川市(52.1%)、紀美野町(41.9%)、海南市(27.5%)とも、県平均(57.4%)を下回っている。

課題

・良質な水質の維持・向上のため、下水道普及率の向上が重要である。

※貴志川流域におけるかつらぎ町、高野町、九度山町は、主に山地であるため、対象外とした。



出典)和歌山県下水道課

河川環境の現状と課題③ —動植物の生息・生育環境—

現状

- ・河床部は砂泥が堆積しており、早瀬、淵が形成されている箇所があり、砂礫堆や露岩部に植物帯が見られる。このため鳥類等の餌場や休息場となっており、多くの生物の生息・産卵場・採餌場として多様な生息環境を提供している。
- ・貴志川の河岸の多くの区間は河畔林が繁茂しており、後背の山地部や周辺地域・農地等との緩衝帯・連続性確保等、重要な役割を担っていると考えられる。

課題

- ・多様な生物の生息・生育空間となっていることから、現況の良好な生息・生育環境を維持・保全していく必要がある。
- ・河岸の河畔林についても、後背の山地部や周辺地域・農地等との緩衝帯・連続性確保等、重要な役割を担っており、維持・保全していく必要がある。

流域に生息・生育する動植物① ー植物ー

現地確認された貴重種

ユキヤナギ



キンラン



カワジシャ



種名	基準		
	1	2	3
ユキヤナギ			準絶滅危惧
カワジシャ	準絶滅危惧	準絶滅危惧	準絶滅危惧
キンラン	絶滅危惧Ⅱ類		絶滅危惧C

- 出典 基準1 「第4次レッドリスト（平成24年8月環境省報道発表資料）」の掲載種
 絶滅危惧Ⅱ類 絶滅の危険が増大している種
 準絶滅危惧 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種
- 基準2 「保護上重要な和歌山の自然－和歌山県レッドデータブック－（2012年改訂、和歌山県）」の掲載種
 準絶滅危惧 存続基盤が脆弱な種
- 基準3 「改訂・近畿地方の保護上重要な植物（2001年、レッドデータブック近畿研究会）」の掲載種
 準絶滅危惧 絶滅の危険性が高くなりつつある種
 絶滅危惧C 生育条件の変化によっては「絶滅危惧種」に以降する要素を持つ種

流域に生息・生育する動植物② ー魚類ー

現地確認された主な貴重種

カマツカ



ギギ



ドンコ



種名	基準	
	1	2
ゲンゴロウブナ	絶滅危惧 I B類	
カマツカ		情報不足
スナガニコイ		学術的重要
トシヨウ	情報不足	準絶滅危惧
シマトシヨウ中型種	絶滅危惧 II類	絶滅危惧 I 類
ギギ		準絶滅危惧
アカザ	絶滅危惧 II類	絶滅危惧 II類
メダカ南日本集団	絶滅危惧 II類	絶滅危惧 II類
タウナギ (本土産)	絶滅危惧 I A類	
ドンコ		準絶滅危惧
ウキコリ		準絶滅危惧

メダカ南日本集団



タウナギ



出典 基準1 「第4次レッドリスト (平成24年8月環境省報道発表資料)」の掲載種

- 絶滅危惧 IA類 ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
- 絶滅危惧 IB類 IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
- 絶滅危惧 II類 絶滅の危険が増大している種
- 情報不足 評価するだけの情報が不足している種

基準2 「保護上重要な和歌山の自然ー和歌山県レッドデータブックー (2012年改訂、和歌山県)」の

- 絶滅危惧 I 類 絶滅の危機に瀕している種
- 絶滅危惧 II類 絶滅の危機が増大している
- 準絶滅危惧 存続基盤が脆弱な種
- 情報不足 評価するだけの情報が不足している種
- 学術的重要 分布または生態等の特性において学術的に価値を有する種

流域に生息・生育する動植物③ ー鳥類ー

現地確認された主な貴重種

ハイタカ



ノスリ



カワセミ



イカルチドリ



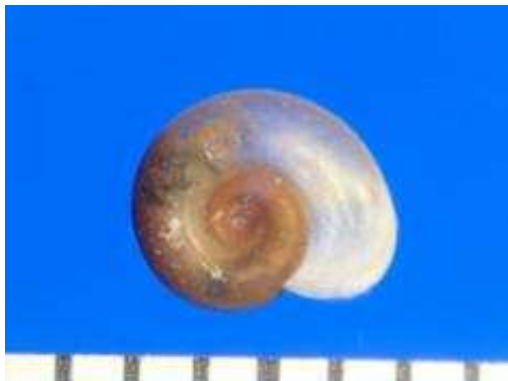
種名	基準			
	1	2	3	4
オトリ		情報不足	準絶滅危惧	準絶滅危惧種
マカモ				準絶滅危惧種
カリアイ				準絶滅危惧種
ミサコ		準絶滅危惧	準絶滅危惧	絶滅危惧種
ハチクマ		準絶滅危惧	準絶滅危惧	絶滅危惧種
オオタカ	国内希少野生動植物種	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧種
ハイタカ		準絶滅危惧	準絶滅危惧	要注目種
ノスリ				準絶滅危惧種
サシバ		絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	絶滅危惧種
クマタカ	国内希少野生動植物種	絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧種
コトリ				準絶滅危惧種
イカルチドリ			準絶滅危惧	準絶滅危惧種
イソシギ				絶滅危惧種
クサシギ				準絶滅危惧種
ツツドリ				準絶滅危惧種
ホトキス				準絶滅危惧種
カワセミ				準絶滅危惧種
コンアカツハメ			準絶滅危惧	
ヒンスイ				要注目種
カワガラス				準絶滅危惧種
ルビタキ				準絶滅危惧種
ノビタキ				準絶滅危惧種
トラツグミ			準絶滅危惧	絶滅危惧種
エゾビタキ				準絶滅危惧種
コサビタキ			準絶滅危惧	
サンコウチョウ			絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧種
アオジ				準絶滅危惧種
クロジ				準絶滅危惧種

- 基準1 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(環境庁, 1992)」により指定されている種
国内希少野生動植物種 その個体が本邦に生息し又は生育する絶滅の恐れのある野生動植物の種であって、政令で定めるものをいう。
- 基準2 「第4次レッドリスト(平成24年8月環境省報道発表資料)」の掲載種
絶滅危惧ⅠB類 IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。
絶滅危惧Ⅱ類 絶滅の危険が増大している種
準絶滅危惧 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種
情報不足 評価するだけの情報が不足している種
- 基準3 「保護上重要な和歌山の自然ー和歌山県レッドデータブックー(2012年改訂、和歌山県)」の掲載種
絶滅危惧ⅠB類 IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険
絶滅危惧Ⅱ類 絶滅の危機が増大している
準絶滅危惧 存続基盤が脆弱な種
- 基準4 「近畿地区・鳥類レッドデータブックー絶滅危惧種判定システムの開発(2002年、京大学学術出版会)」の掲載種
絶滅危惧種 絶滅する可能性が大きい
準絶滅危惧種 絶滅する可能性がある
要注目種 近畿地方での繁殖地がきわめて限られており、なんらかの撹乱により一気に絶滅する可能性があるもの、

流域に生息・生育する動植物④ ー底生動物ー

現地確認された主な貴重種

ヒラマキミズマイマイ



ニホンカワトンボ(幼虫)



キイロヤマトンボ(幼虫)



ミヤマサナエ(幼虫)



キイロサナエ(幼虫)



種名	基準		
	1	2	3
ヒラマキミズマイマイ	情報不足		
ニホンカワトンボ		準絶滅危惧	
ミヤマサナエ		準絶滅危惧	
キイロサナエ	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類	
アオサナエ		準絶滅危惧	
キイロヤマトンボ	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅰ類	
ゲンジボタル			主要C

出典 基準1 「第4次レッドリスト（平成24年8月環境省報道発表資料）」の掲載種
 準絶滅危惧 存続基盤が脆弱な種
 情報不足 評価するだけの情報が不足している種
 基準2 「保護上重要な和歌山の自然－和歌山県レッドデータブック－（2012年改訂、和歌山県）」の掲載種
 絶滅危惧Ⅰ類 絶滅の危機に瀕している種
 絶滅危惧Ⅱ類 絶滅の危機が増大している種
 準絶滅危惧 存続基盤が脆弱な種
 基準3 「自然環境保全基礎調査報告書（第1回録の国勢調査）昭和51年、環境庁」における近畿地方記載植物及び主要動物（第1回）の掲載種
 主要野生動物C 主要野生動物の対象地域が徒跫部県レベル（A：全国レベル、B：地方レベル）

維持管理に関する現状と課題

現状

- ・洪水時による災害防止のために、堤防、護岸、樋門・樋管等の河川管理施設の機能を維持するために河川巡視を行っている。
- ・取水堰や橋梁等といった許可工作物においても、許可工作物管理者に機能を維持するよう指導を行っている。
- ・治水上重要な区間の維持管理にあたっては、河川の流れを阻害する堆積土砂や樹木の繁茂等に対して、維持対応を行っている。

課題

- ・河川管理施設及び許可工作物が、設置後長期間を経過している施設が多いため、今後老朽化対策を行う必要がある。

地域住民との連携

現状

- ・河川愛護活動では、河川の美化活動、水質保全に関する啓発宣伝活動、パトロールの実施等積極的な活動を行っている。
- ・貴志川、柘榴川、野田原川等では地域住民による草刈りや清掃活動等が行われるなど、地域の河川環境に対する関心は高く、平成25年度には流域内で6団体による河川愛護活動が行われている。

河川愛護活動の状況



貴志川



柘榴川

本資料は、紀の川水系貴志川流域河川整備計画(素案)の作成にあたり、「貴志川流域(紀美野町)を考える会」において、委員からの意見聴取のため、和歌山県が作成した資料であり、本資料の内容は、調査・検討途上の情報を含み、今後の県による調査・検討・確認作業、委員や県民等からのご意見・ご指摘などを受け、追加・修正される可能性があります。